

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添

なし

応募概要	分野	伝統芸能	種目	邦楽
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじん にほんおんがくしゅうだん		
	制作団体名	特定非営利活動法人 日本音楽集団		
	代表者職・氏名	尾崎 太一		団体ウェブサイトURL https://www.promusica.or.jp/
	制作団体所在地	〒 151-0073	最寄駅(バス停)	京王線 笹塚駅
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	1964年4月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等 正会員:66名、協力会員:46名、賛助会員:法人3、個人18人(以上、計130名、3法人) 加入条件／本団の趣旨に賛同し、プロとしての音楽活動を行う事や協力・支援する事。	
	事務体制 事務(制作)専任担当者の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	米澤 浩
	経理処理等の監査担当の有無	有	経理担当者	中山 美穂子 (中山が令和7年度一杯で退職するため、令和8年度以降の経理処理は外部の企業に委託する。外部の企業では3名程度のチームで業務を担当する予定であり、個人名などはまだ確定していない。)
本応募にかかる連絡先	メールアドレス yonesan.108@nifty.com	電話番号	09030922191	

制作団体の実績	<p>制作団体沿革・主な受賞歴</p> <p>【特定非営利活動法人 日本音楽集団】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1964年、演奏家と作曲家の14名で設立。同年11月に第1回定期演奏会を開催。 ・1981年、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団 命名200年記念委嘱作品『急の曲』(三木稔作曲)を同オーケストラ音楽監督クルト・マズア氏指揮で初演。 ・1999年、特定非営利活動法人に認定。 ・2001年、邦楽アンサンブルとして初めて『プラハの春』に招聘(第25次海外公演)。 ・2010年、第30次海外公演(ユーラシア音楽祭、ロシア、モンゴル公演)を実施。 <p>年3回の定期演奏会の他、全国各地の鑑賞団体や文化施設主催のコンサート、小・中・高等学校での鑑賞会、CD、放送、映画、そして『スーパー歌舞伎』などの演劇の音楽も担当するなどの活動を行い、定期演奏会は2025年9月までに246回を数えます。</p> <p>【受賞歴】</p> <table border="0"> <tr> <td>1967年芸術祭奨励賞</td><td>1970年芸術祭大賞</td></tr> <tr> <td>1971年芸術祭優秀賞</td><td>1978年第2回音楽之友社賞、レミー・マタン音楽賞</td></tr> <tr> <td>1988年松尾芸能賞特別賞</td><td>1990年モービル音楽賞</td></tr> </table>	1967年芸術祭奨励賞	1970年芸術祭大賞	1971年芸術祭優秀賞	1978年第2回音楽之友社賞、レミー・マタン音楽賞	1988年松尾芸能賞特別賞	1990年モービル音楽賞
1967年芸術祭奨励賞	1970年芸術祭大賞						
1971年芸術祭優秀賞	1978年第2回音楽之友社賞、レミー・マタン音楽賞						
1988年松尾芸能賞特別賞	1990年モービル音楽賞						
<p>昭和39年(1964年)に任意団体として設立し、平成10年(1998年)までに723公演以上の学校鑑賞会の実績を持ちます。(創立から昭和57年までの実績データは不明。)</p> <p>平成11年(1999年)にNPO法人となって以降は400公演以上の実績を持っています。</p> <p>その中、平成18年(2006年)より認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワークと協働している『Meet_The_和楽器』プロジェクトを実施して来た過程で、平成24年(2012年)に『箏体験プログラム《さくらリレー》』を確立させ、実施して来ています。</p> <p>平成26年から令和6年(2014～2024)までの10年間の本事業(文化庁巡回公演)でも、132校で44493人の児童生徒に上記の楽器体験プログラムで「箏体験」と本公演の鑑賞をしてもらっています。</p> <p>又、本事業と並行して上記の『Meet_The_和楽器』プロジェクトでも、令和6年までに『箏体験プログラム《さくらリレー》』を東京都中央区・江東区内の小学校延べ47校で小学校4年生4715名を対象に実施した実績を持っており、2つの事業での実施総数は、全国の179校の小中学校で49208人を対象に事業を実施した実績を持ちます。</p> <p>文化庁の学校巡回公演事業でも『箏体験プログラム《さくらリレー》』を含めた『巡回公演プログラム』を実施いたします。</p>							
<p>特別支援学校等における公演実績</p> <p>※文化庁巡回公演事業における実績</p> <p>平成26年度／愛知県立豊橋特別支援学校 平成27年度／滋賀県立三雲養護学校、大阪市立平野特別支援学校 平成28年度／福岡県立福岡聴覚特別支援学校、長崎県立盲学校 平成30年度／青森県立八戸聾学校・盲学校</p> <p>※アーツカウンシル東京の事業における実績</p> <p>令和4年度／東京都立新宿養護学校、東京都立田園調布特別支援学校 令和5年度／東京学芸大学付属特別支援学校 令和6年度／旭出学園(私立特別支援学校)、 東京都立東久留米特別支援学校</p>							

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	無
	※公開資料有の場合URL	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID: PW:

別添

なし

【公演団体名 特定非営利活動法人 日本音楽集団】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	『ごんぎつね』～日本音楽集団と音楽づくり！～			
企画のねらい	<p>小学校では『ごんぎつね』の「ごんのうた」で共演、中学校では箏（こと）の演奏で『さくら～手と手でつなごう！』で共演することにより、生徒代表と演奏者が《音楽づくり》《共演体験》《協働体験》を共有し、その発表を全校生徒が鑑賞することにより《間接的体験》も共有することも意図しています。</p> <p>又、多彩な演奏家が集まっている演奏団体として、各楽器の演奏者が古典作品を紹介することはもちろんですが、それぞれの「音楽との出会い」や「自分の楽器・演奏への思い」など、演奏家として現在に至る「個人史」にも触れ、《キャリア教育》《キャリアプランニング》にも寄与することを意図しています。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>第1部は司会者（協力俳優）と演奏者により各演奏者の紹介と古典や現代の合奏曲の紹介、第2部は音楽朗読劇の『ごんぎつね』で構成しています。</p> <p>●【小学校】では、国語の授業で「ごんぎつね」を学習した中・高学年の中から学校側で代表の学年を選出して頂き、『ごんぎつね』の「ごんのうた」で日本音楽集団の7名（7種）の演奏者と共演して頂きます。</p> <p>●【中学校】では、ワークショップで箏（こと）を体験した生徒さんから代表生徒（10名以内）を選出して頂き、『さくら～手と手でつなごう！』で日本音楽集団の7名（7種）の演奏者と箏の演奏で共演して頂きます。</p>			
児童・生徒の参加または体験の形態	<p>●【小学校】『ごんぎつね』を国語の時間に学習した4年生以上の児童生徒を代表として選出して頂き、「ごんのうた」で日本音楽集団と共演し、日本音楽集団の演奏者と《音楽朗読劇を作り上げる過程を共有》して《協働の場》を持つことを意図しています。</p> <p>●【中学校】代表生徒の皆さんに箏（こと）を演奏してもらい『さくら～手と手でつなごう！』で7名の日本音楽集団の演奏家と共演して頂きます。尚、箏の面数とプログラム全体の時間枠から共演する代表生徒は2年生以上の10名までとさせて頂きます。（生徒さんを入れ替えて複数回演奏することには対応できません。）</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演		参加・体験人數目安	【小学校】歌で共演：最大160名 【中学校】箏演奏で共演：最大10名
			鑑賞人數目安	50名～300名
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>(1) 【小学校】『宮崎駿アニメ・メドレー』（秋岸寛久編曲） (1) 【中学校】『さくら～手と手でつなごう！』（高橋久美子編曲） /◆中学生代表生徒（10名以内）が《箏で共演》</p> <p>(2)～(6)『日本の楽器たち』（古典作品） /六段の調、鹿の遺音、春の海、那須の与一、幕間三重・獅子狂い五段</p> <p>(7)『子どものための組曲』（篠田大介作曲） ～休憩（10分）～</p> <p>(8) 【小学校】『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～／ （作：新美南吉、音楽：川崎絵都夫、作詞：佐藤万里） /◆児童生徒代表が《歌で共演》</p> <p>(8) 【中学校】『ごんぎつね』～語りと邦楽器で作る音楽朗読劇～／（作：新美南吉、音楽：川崎絵都夫） /鑑賞のみ</p>			
公演時間	100	分		
出演者	<p>●7種の和楽器の7名の演奏家（日本音楽集団_団員） ○笛／新保 有生・あかる 潤・芝 有維、 ○尺八／元永 拓・原郷 隆・田野村 聰、 ○三味線／杵家 七三・山崎 千鶴子・簗田 弘大・長井 麻江、 ○琵琶／久保田 晴子・藤高 理恵子、 ○箏（こと）・二十絃箏／熊沢 栄利子・桜井 智永・三宅 礼子・石井 香奈、 ○十七絃箏／城ヶ崎 美保・丸岡 映美・久本 桂子、 ○打楽器／臼杵 美智代・多田 恵子・盧 慶順・山内 利一、他 ●協力俳優（助演） ○司会と朗読／飛山 真利子・宝本 夢子・吉瀬 はなこ、他 以上、7名の演奏家と司会・朗読1名、計8名を派遣</p>			
演目の芸術上の評価となる者（メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等）の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<ul style="list-style-type: none"> ・プロデューサー：米澤 浩（企画・構成・制作／日本音楽集団_副代表） ・チームディレクター：元永 拓（尺八演奏家／日本音楽集団_理事）、原郷 隆（尺八演奏家／日本音楽集団_理事）、田野村 聰（尺八演奏家／日本音楽集団_理事）、他 			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者： 8 名	運搬	積載量： 1.25 t	
	スタッフ： 1 名		車 長： 4.69 m	
	合 計： 9 名		台 数： 1 台	

本公司 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュー ル)の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間		時間程度													
	到着	仕込	上演	内休憩	撤去														
	9時30分	9時30分～12時15分 (共演のリハーサル含む)	13時30分 ～15時10分	10分	15時20分 ～15時50分														
※本公司演時間の目安は、概ね2時間程度です。																			
本公司 実施可能日数 目安 ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月	7月	8月	9月															
	10月	11月	12月	1月															
	5日	15日	14日																
	※平日の実施可能日数を記載ください。		計		34日														
	<p>【ワークショップ】～会場の設営～ 写真のように体験用の箏を20面配置するスペースに加え、共演の練習のための演奏者用の楽器を配置するスペースも必要であるため、<u>ワークショップ会場は体育館とさせて頂きます</u>。</p>   																		
本公司 ・ワークシ ョップの内 容	<p>【ワークショップ】～モニターを使って説明～ どうやったら良い音でお箏を弾けるのか等を、モニターを使い分かりやすく説明しながらワークショップの楽器体験を進めて行きます。 モニターカメラや三脚に加え、ポータブルスピーカーやマイク・マイクスタンド等は日本音楽集団で持ち込みますが、モニター用に学校備品のテレビ・電子黒板、及び、電源ドラムコードなどを借りります。</p>																		
	<p>【本公司】～会場の設営～ 体育館フロアでの公演を基本としています。 体育館は横長に使用し、演奏者がどのように楽器を演奏しているか等、演奏者の手の動きや息づかいなどを、少しでも「間近に見て感じてもらう」ことを目指しています。 低学年の子ども達は、前列に並ぶか中央部に座るか等を各実施校毎にご相談しながら着席して頂きます。</p>																		
	<p>【本公司】～演奏に必要な広さ～ 演奏に最低限必要なスペースは、「間口8m」・「奥行き3m」です。 『演奏者エリア』から約3m程度離れたところから児童生徒さんが着席する『鑑賞エリア』を設定して下さい。 ●【中学校】では、写真の「演奏スペース」と「鑑賞エリア」の間のフロアに「共演用の箏10面」を設置しますので、『鑑賞エリア』はこれに伴い後ろに下がることになります。</p>																		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="3">各種上演権、使用権等の許諾手続の要否</td> <td>該当あり</td> <td>該当コンテンツ名</td> <td colspan="2">『ごんぎつね』</td> </tr> <tr> <td>著作権、上演権等の許諾状況</td> <td>該当事項がある場合</td> <td>権利者名</td> <td>川崎 絵都夫 氏</td> <td>許諾確認状況</td> <td colspan="2">使用(上演)許諾取付済</td> </tr> </table>						各種上演権、使用権等の許諾手続の要否			該当あり	該当コンテンツ名	『ごんぎつね』		著作権、上演権等の許諾状況	該当事項がある場合	権利者名	川崎 絵都夫 氏	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済
各種上演権、使用権等の許諾手続の要否			該当あり	該当コンテンツ名	『ごんぎつね』														
著作権、上演権等の許諾状況	該当事項がある場合	権利者名	川崎 絵都夫 氏	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済														

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名 特定非営利活動法人 日本音楽集団】

ワークショップの内容	ワークショップのねらい	<p>● 【小学校】で実施する『箏体験プログラム《さくらリレー》』は単に「箏（こと）に触れてみる」プログラムではなく、<u>2人のペアの協力とクラス全体の協力で「さくら」を演奏する《協力要素》</u>を盛り込み、<u>《クラス全体で達成感を共有》</u>してもらう<u>《参加型体験プログラム》</u>として実施しています。</p> <p>● 【中学校】で実施する『箏体験プログラム《さくらリレー》』は、先ずは「箏（こと）に触れる」ところから始め、進捗具合に沿いながら『さくら～手と手でつなごう！』で日本音楽集団の演奏者との<u>《共演体験》</u>を目指して実施しています。</p>		
	児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人數目安	最大160名（4クラス）／ 【樂器体験】授業時間1コマ単位でクラス毎に実施、最大4クラス（4コマ）まで可能。
	<p>ワークショップ（以下、WS）は、【小学校】には演奏家5名と協力俳優1名の計6名、【中学校】には演奏家5名を派遣して実施します。</p> <p>● WSの会場／【小学校・中学校】共通 体験用の箏（こと）20面と共演する演奏者用樂器を配置するスペースを確保するため、基本的に体育館をWS会場とさせて頂きます。 (◆ No.2の「公演に係るビジュアルイメージ」をご参照下さい。)</p> <p>● 箏体験【小学校・中学校】共通／【箏体験プログラム《さくらリレー》】 私共法人が箏（こと）20面を実施校に持ち込み『箏体験』をクラス単位で実施します。 又、弾き方を紹介するためのモニター用ビデオカメラ類も持ち込み、学校備品のテレビモニター等をお借りして生徒の皆さんに分かりやすく解説して進行します。 (◆ No.2の「公演に係るビジュアルイメージ」をご参照下さい。) 尚、小学校でのWS実施対象学年は、国語の授業で「ごんぎつね」を学習した4年生以上とさせていただきます。</p> <p>● 共演の練習／ ● 【小学校】での共演の練習 代表の児童生徒のクラス合同で「ごんぎつね」に登場する3曲の『ごんのうた』で共演するための練習を、WSの最後の授業時間枠に行います。 本公司で『ごんぎつね』を朗読する協力俳優の指導により、5人の演奏家（尺八・三味線・二・十絃箏・十七絃・打楽器）が伴奏して共演する「ごんのうた」の練習を実施します。</p> <p>● 【中学校】での共演の体験 本公司では『成果発表』として代表生徒の皆さん（2年生以上10名以内）と日本音楽集団の演奏者が『さくら～手と手でつなごう！』で共演をしますが、WSでは樂器を体験した全ての生徒さんに、日本音楽集団の5名の演奏家と合奏する体験をして頂きます。 WSでは、進捗具合に沿いながら生徒さん達が『共演体験』を持つことを目指しています。</p> <p>● 【小学校】WS_実施のタイムテーブル／ 1校時目一箏（こと）類の搬入と準備、2校時目一箏体験（代表1クラス目） 3校時目一箏体験（代表2クラス目）、4校時目一箏体験（代表3クラス目） 5校時目一箏体験（代表4クラス目）、6校時目共演練習（体験クラス合同で実施）</p> <p>● 【中学校】WS_実施のタイムテーブル／ 体育館を使用できる時間枠にも関係するため、個別に応談いたします。</p> <p>◆注記◆ 前泊地から実施校が離れている場合は、1校時目から準備を開始することが難しい場合があります。その場合は2校時目に箏類の搬入・準備をし、3校時目以降に箏体験を行うため代表のクラス数は減少します。</p>			
	その他ワークショップに関する特記事項等	<p>日本音楽集団で実施している『箏体験プログラム《さくらリレー》』は、試行を経て平成24（2012）年に東京都中央区の小学4年生を対象に本格的にプログラムの実施を開始しました。 令和6年9月の段階で、文化庁巡回公演事業でのワークショップも含め全国の小中学校179校で49208人を対象に実施した実績を持ち、実施現場からのフィードバックを基にしたプラッシュアップも行いながら現在に至ります。令和5年度に中学校での事業実施を開始し、令和6年度より本格的に中学校でのワークショップ実施と本公司での共演を軸として本事業を実施しています。</p> <p>『箏体験プログラム《さくらリレー》』は、「体験レッスン」になりがちな樂器体験ではなく、ファシリテーターが体験をサポートしながら『子ども達それが自分で感じながら『箏』という樂器を体験していく』ことに重きを置いたプログラムです。</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名】 特定非営利活動法人 日本音楽集団】

記載方法等	例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。				
	・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。				
	・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。				
	・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。				
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。					
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。					
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただることになります。					
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。					

会場条件	(必須) 公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。						
	会場の設置階の制限	2F以上応相談	主幹引き込み電源容量	不要	A以上		
	舞台設置面積	間口	8 m	奥行	3 m		
		高さ	m				
	舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応	条件が合えば可		
	搬入間口の広さ	幅	1.8 m	高さ	2 m		
	遮光の要否	不要	緞帳の要否	あれば使用する可能性がある			
	ピアノの使用について	使用しない	ピアノを使用する場合の設置位置の指定				
			ピアノを使用しない場合の移動の要否				
	搬入車両(トラック等)の横づけ	必須	トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離	下記備考をご参照	m以内		
搬入車両の種類		ハイエース	台数	1 台			
搬入車両の大きさ		車幅	1.69 m	車長	4.69 m		
備考		【ピアノの移動について】 演奏エリアを設営する場所との関係で、移動が必要になる場合があります。 【 トラック横づけ不可の場合の搬入対応】 搬入する楽器類が、雨・雪等で濡れることなく搬入できるならば「渡り廊下」等を通っての搬入も可能です。 距離ではなく、屋根の有無が重要な問題 となります。					

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報	(任意) 学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
	会場図面の提出要否	要
	その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	

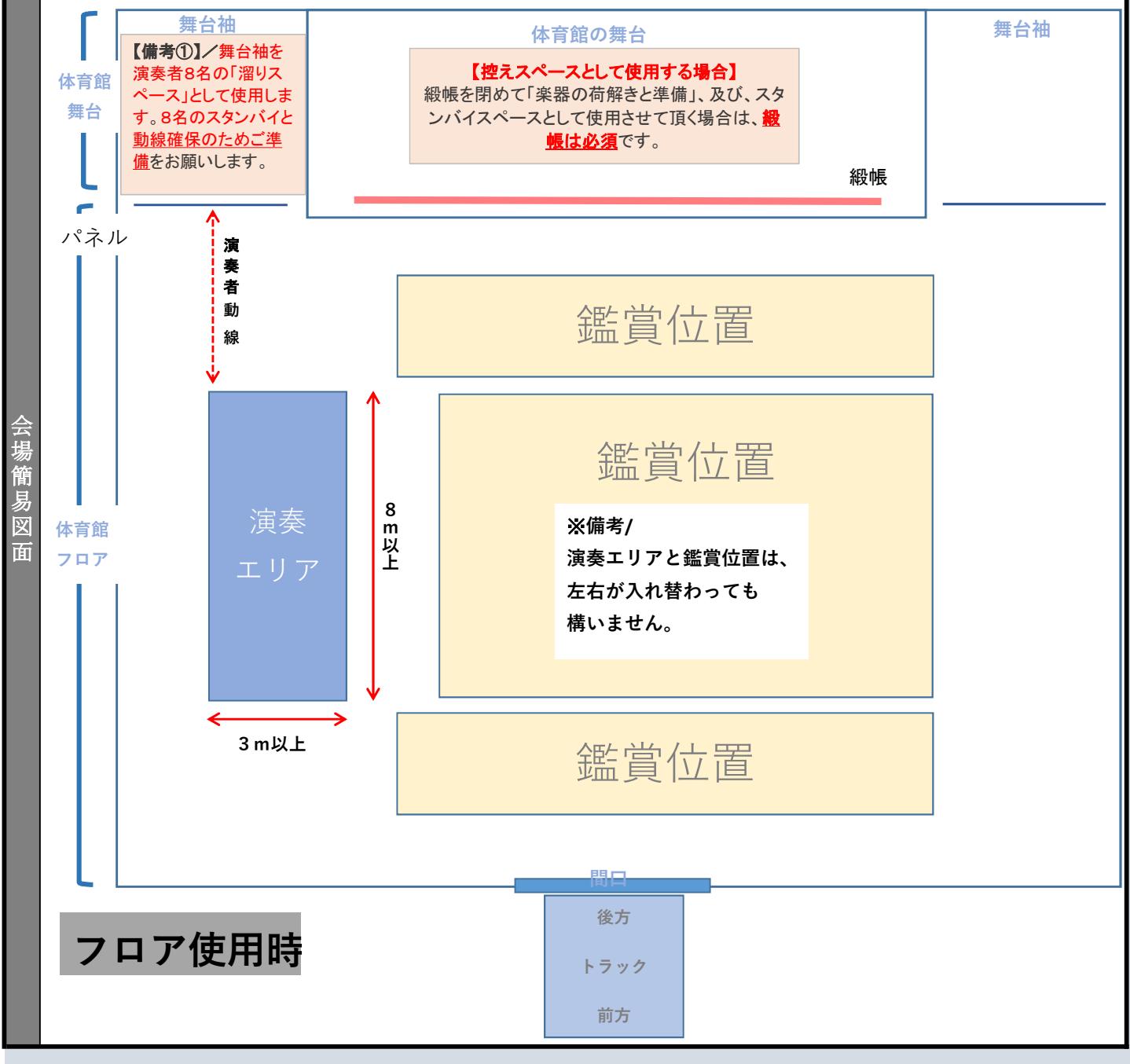
時間外対応	(任意)	<p>万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。</p> <p>なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。</p> <p>※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。</p>			
	対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ 共演、参加又 は体験対象と なる児童・生 徒	【小学校】箏体験／ 1クラスにつき45分 (最大4 クラスまで体験が可能) 【小学校】共演練習／ 箏体験を行ったクラス合同で 45分	2校時目以降の授業時間 で、クラス数が少ない場合 は、『後ろ詰め』の授業時間 で実施します。	クラス毎に『箏体験』を実施 し、体験したクラス合同で本 公演で共演する『ごんのう た』を練習します。	宿泊地と実施校が離れてい たり、公共交通機関の時間 によっては、2校時目から開 始できない場合があります。
	ワークショップ 共演、参加又 は体験対象と なる児童・生 徒	【中学校】箏体験／ 1クラスにつき50分 で、最大 5クラスまでの体験が可能で す。	2校時目以降の授業時間 で、クラス数が少ない場合 は、『後ろ詰め』の授業時間 で実施します。	クラス毎に『箏体験』を実施 し、体験時間の最後に『さく ら～手と手でつなごう！』で 日本音楽集団の演奏者との 合奏を体験してもらいます。	宿泊地と実施校が離れてい たり、公共交通機関の時間 によっては、2校時目から開 始できない場合があります。
	本公演 共演、参加又 は体験対象と なる児童・生 徒	【小学校】共演リハ／ 本公演当日に、45分 (授業 1コマ)で、『ごんのうた』で共 演する児童生徒代表とのリ ハーサルを行います。	本公演を5・6校時に実施す る前提で、 本公演日の4校 時目に児童生徒代表とのリ ハーサル を実施します。	本公演と同じ条件で『ごんの うた』で共演するリハーサル を行います。	共演する児童代表の皆さん 全員に、4校時目に体育館 に集合してもらい実施しま す。
	本公演 共演、参加又 は体験対象と なる児童・生 徒	【中学校】共演リハ／ 本公演日の昼休みの終わり の時間帯の10分程度、生徒 代表10名の皆さんと体育館 でリハを行います。	本公演日の昼休みの終わり の時間帯の10分程度。	生徒さん方の登場の段取り を含め、共演する『さくら～ 手と手でつなごう！』のリ ハーサル を行います、	共演する生徒代表の人数 は、最大10名までです。

個別 確認 事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。
		個別ヒアリング事項
	1	
	2	
	3	

(任意)

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。



別添

なし

【公演団体名 特定非営利活動法人 日本音楽集団】

本事業への応募理由等	本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫	<p>【本事業を通じて実現したいこと】</p> <p>多くの子ども達にとって、普段の生活の中で「邦楽器は縁遠い存在」であることは否めません。その中、日本の楽器に触れてみる機会を提供することや、日本楽器の演奏者と交流してもらうこと等は、「邦楽の普及」を設立主旨の柱の一つとする本法人にとって「次世代へメッセージを送り続ける活動」そのものであり、非常に重要な活動の一つです。</p> <p>これまで『体験して共演する』ことを意図して、小学校では子ども達が歌で共演する『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～を本事業の主軸作品として来ましたが、令和6年からは新たに中学生を対象として箏（こと）で『さくら』を演奏して共演するプログラム『さくら～手と手でつなごう！』を本事業の主軸作品に加え、事業の実施に臨んで来ています。</p> <p>これらの体験と鑑賞を通じ、邦楽器が「縁遠い存在」から「少し身近な楽器」となり、興味や関心を持ってもらえるようになることを強く願っています。</p>
		<p>【上記の実現に向けて、実施の工夫】</p> <p>実施校のご担当の先生のために、事業の準備から実施までをまとめた《日本音楽集団版 実施の手引き》を作成しており、最初に郵送する資料セットに加えてご担当の先生にお送りしています。</p> <p>この郵送資料の中には、先生方専用の事前資料として箏体験プログラム『さくらリレー』の紹介DVDも同封してお送りしています。</p> <p>又、事業実施に向けて本法人内に「事業担当プロデューサー」と「クール毎のチームディレクター」でのチームを設置して準備を進め、いずれの公演においてもワークショップと本公演が円滑に実施できるように準備を行っています。</p>
	事業を適切かつ円滑に実施するための工夫	<p>【学校との連絡調整について】</p> <p>事業実施のための情報共有資料としてチェックシート（エクセルファイル）のフォーマットを作り、プラスアップを繰り返して現在に至っています。</p> <p>本事業の担当プロデューサーが、実施校のご担当の先生のご協力を仰ぎながらこの『チェックシート』を完成させ、ワークショップと本公演の実施に向けてご担当の先生だけでなく、各クラス担任の先生方も含めて実施校内でも「情報共有」して頂いて事業の実施に臨んでいます。</p> <p>この『チェックシート』は、実際に実施校に赴く演奏者・スタッフにとっても重要な情報共有ファイルであり、ワークショップ・本公演の事業全体を円滑に実施するための必須資料になっています。</p>
	事業を適切かつ円滑に実施するための工夫	<p>【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】</p> <p>体験ワークショップにおいては、「チームディレクター」がファシリテーターを務め、各クラスの子ども達に沿いながらワークショップを進行させています。</p> <p>共演の練習においては、小学校では司会と朗読を担当する「協力俳優」が歌の練習をリードし、中学校では「チームディレクター」が日本音楽集団の演奏家との合奏をリードしています。</p> <p>又、希望校においては、体験や共演練習の場を離れたところでも生徒さん達と日本音楽集団の演奏者がコミュニケーションの場を持てるよう、「給食交流」を推奨・実施しています。</p>
		<p>【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】</p> <p>現在では、タブレットを使って知りたい情報や映像などを直ぐに検索できるようになり、教育の現場でのタブレットの普及率は「ほぼ100%」になっています。</p> <p>まずは、日本の楽器や演奏者に興味を持つもらいたいと思い、各実施校で本公演時に配付するプログラムには私共法人の「ホームページ・フェイスブック・ユーチューブチャンネルのQRコードを記載</p> <p>本事業が、一人でも多くの子ども達が邦楽器への関心を持つ機会になって欲しいと願い、このような工夫しています。</p>